

<学生向けFAQ>

1 奨学金制度の概要

- Q1-1 奨学金貸与は誰が受けられますか。
- Q1-2 4年制薬学課程を修めて卒業し、かつ、大学院において薬学の修士課程を卒業し、その後大学院に修学せず実務実習のみの年度でも奨学生の対象となりますか。
- Q1-3 奨学金の貸与は何年間受けられますか。
- Q1-4 奨学金の貸与額はどれくらいですか。
- Q1-5 どのようなときに返還免除となりますか。
- Q1-6 返還免除を受けるために、免許取得後従事する薬局は、指定薬局であればどこでもよいのですか。
- Q1-7 これから薬学部に進学するつもりですが、将来受けられますか(制度はいつまで続きますか)

2 エントリーシートの提出

- Q2-1 奨学金募集の時期(エントリーシートの提出)はいつですか。
- Q2-2 佐賀県内在住で福岡県の高校を卒業した場合は受けられますか。
- Q2-3 県内高校出身ですが、親は転勤のため現在県外在住です。奨学金貸与の対象になりませんか。
- Q2-4 県内高校出身ですが、親はずっと県外在住です。奨学金貸与の対象になりませんか。
- Q2-5 エントリーシートを提出すると、連絡があるのですか。

3 エントリーシート提出後(指定薬局の選択、マッチングの選択)

- Q3-1 提出後は何をすればよいのですか。
- Q3-2 指定薬局の選択は、1つでないといけないのでしょうか。

4 マッチングセミナー

- Q4-1 マッチングとはどのようなことでしょうか。
- Q4-2 マッチングセミナーとは何をやるのですか。
- Q4-3 マッチングセミナーはいつどこで開催されるのですか。
- Q4-4 既に予定が入っているのですが、マッチングセミナーは必ず出席しなければならないのですか。
- Q4-5 マッチングセミナーに欠席すると、希望の薬局から奨学金をもらうためには不利になりますか。

5 マッチングの成立

- Q5-1 マッチングが成立したことは、こういった形で連絡があるのですか。
- Q5-2 マッチング成立により、奨学貸与が決まったことになるのですか。
- Q5-3 マッチング成立後に、マッチング相手(の就業予定薬局)を変更することはできますか。

6 奨学金貸与に係る三者契約

- Q 6-1 大学からの推薦書は、誰に推薦してもらったらよいですか。
- Q 6-2 成績証明書は何年分必要でしょうか。
- Q 6-3 連帯保証人のうちの一人の3親等以内について、もう一人の親を立てることができますか。
- Q 6-4 3親等以内で連帯保証人となる親族がいない場合は、どうすればよいですか。
- Q 6-5 親等の住民票について、現在、県外に在住していますが、その住民票で構いませんか。
- Q 6-6 マッチングが成立していても、奨学金貸与の対象にならないことがあるのですか。
- Q 6-7 抽選はどうやって行うのですか。また、貸与決定の抽選に外れた場合は、どうなりますか。
- Q 6-8 他の奨学金との重複受給は認められますか。

7 奨学金貸与期間、薬剤師免許取得まで

- Q 7-1 6年次へ進級し、引き続き奨学金の貸与を受ける場合に、手続きはありますか。
- Q 7-2 要領第6-2-(1)のおって書きに「4年制薬学課程卒業で大学院に修学していない奨学生については、別途県薬に相談すること。」とありますが、2年目の手続きは具体的にはどうすればよいでしょうか。
- Q 7-3 6年次に進級できましたが、卒業延期となってしまいました。どうしたらよいでしょうか。
- Q 7-4 6年次へ進級できませんでした。奨学金貸与を続けられますか。
- Q 7-5 最短年数で無事卒業できましたが、薬剤師国家試験に落ちてしまいました。どうしたらよいでしょうか。
- Q 7-6 退学処分や停学処分を受けたときはどうなりますか。
- Q 7-7 休学することになったのですが、どのような取扱いになりますか。
- Q 7-8 やむを得ない理由による休学と認められましたが、1年未満で復学できませんでした。
どのような取扱いになりますか。
- Q 7-9 住所が変わりました。届け出は必要ですか。

8 卒業後、奨学金貸与の返還について

- Q 8-1 奨学金貸与期間の1.5倍相当期間を指定薬局の薬剤師として業務に従事した場合は返還を免除する
ありますが、具体的にどういうことですか。
- Q 8-2 奨学金貸与期間の1.5倍相当期間を指定薬局で勤務を開始し、又は満了した場合は届出が必要ですか。
- Q 8-3 薬剤師としての免許申請は5月頃になるはずですが、それまで従事した間の分はカウントされないの
でしょうか。
- Q 8-4 1.5倍相当の期間中に指定薬局で従事しない時期が生じた場合はどうなるのですか。
- Q 8-5 卒業後、事情により県外で就職しなければならなくなったときはどうしたらよいですか。

1 奨学金制度の概要	
Q 1-1 奨学金貸与は誰が対象ですか。	A 1-1 佐賀県内の高校出身で大学の6年制薬学課程に進学した5年生若しくは6年生又は4年制薬学課程を修めて卒業し、かつ、大学院において薬学の修士若しくは博士の課程を修学する者又は修士の課程を卒業した者であって、薬剤師国家試験受験資格が得られる年度の直近1年又は2年の期間の者です。 ただし、奨学金貸与後は、留年等がなく正規の修学の最短コースで薬剤師国家試験受験資格が得られる者でなければなりません。
Q 1-2 4年制薬学課程を修めて卒業し、かつ、大学院において薬学の修士課程を卒業し、その後大学院に修学せず実務実習のみの年度でも奨学生の対象となりますか。	A 1-2 薬学の修士の課程を卒業した者であって、薬剤師国家試験受験資格が得られる年度の直近1年又は2年の期間の者であれば、奨学生の対象となります。
Q 1-3 奨学金の貸与は何年間受けられますか。	A 1-3 薬剤師国家試験受験資格が得られる年度の直近の1年間又は2年間です。 6年制薬学課程の場合は、5年生から6年生の2年間（24か月）又は6年生の1年間（12か月）のいずれかです。 又は4年制薬学課程卒業で薬学の修士・博士課程の大学院生若しくは修士課程を卒業した者の場合は、薬剤師国家試験受験資格が得られる年度の直近1年間又は2年間のいずれかです。 また、奨学金貸与終了後1年半の間に薬剤師免許取得できなければ奨学金の返還が必要となりますので注意が必要です。
Q 1-4 奨学金の貸与額はどれくらいですか。	A 1-4 毎月10万円、1年間で計120万円です。
Q 1-5 どのようなときに返還免除となりますか。	A 1-5 薬剤師免許取得後、一定期間（貸与期間の1.5倍）指定薬局で薬剤師として従事すると全額免除されます。 （例：2年間貸与の場合は3年間従事することが必要です。）
Q 1-6 返還免除を受けるために、免許取得後従事する薬局は、指定薬局であればどこでも良いのですか。	A 1-6 いいえ、従事する薬局はあらかじめ指定薬局の中から選んで決めておかななくてはなりません。 その相手を決めるのがマッチングです。正式に奨学生となるためには、指定薬局と佐賀県薬剤師会との三者での契約が必要となります。
Q 1-7 これから薬学部に進学するつもりですが、将来受けられますか（制度はいつまで続きますか）。	A 1-7 この制度では、50人程度の薬剤師を確保することを目的として、毎年10人程度の薬学生等に奨学金を貸与することとしていますので、永久に続くものではありません。今のところ、平成33年度までが対象になる見込みです。

2 エントリーシートの提出	
Q 2-1 奨学金募集の時期（エントリーシートの提出）はいつですか。	A 2-1 平成30年度貸与開始対象の募集期間は、平成30年11月23日（金・祝）（マッチングセミナー開催日）までです。 なお、定員に満たない場合は、追加募集することもあります。
Q 2-2 佐賀県内在住で福岡県の高校を卒業した場合は受けられますか。	A 2-2 平成30年5月1日に見直し（変更）をしており、親が県内在住であれば卒業した高校は県内、県外を問いません。
Q 2-3 県内高校出身ですが、親は転勤のため現在県外在住です。奨学金貸与の対象になりませんか。	A 2-3 原則として対象になりますが、県薬剤師会内でエントリーシート提出後に審査を行い、決定します。 元々は県内在住であったことや、県外への転居となった理由を確認しますので、エントリーシートに加えて資料提出を求めることがあります。
Q 2-4 県内高校出身ですが、親はずっと県外在住です。奨学金貸与の対象になりませんか。	A 2-4 申し訳ありませんが、今回は佐賀県出身の方を対象としておりますので、ご家族が県内に全く住んでいなかった場合は対象となりません。
Q 2-5 エントリーシートを提出すると、連絡があるのですか。	A 2-5 エントリーシートに記載された内容が奨学対象要件を満たしていない場合には連絡します。 エントリーシートの情報は各指定薬局に提供します。 また、マッチングセミナー参加について、県薬剤師会から確認の連絡をします。
3 エントリーシート提出後（指定薬局の選択、マッチングの選択）	
Q 3-1 提出後は何をすればよいのですか。	A 3-1 薬剤師免許取得後、薬局薬剤師として業務に従事したい薬局の候補を、「指定薬局等一覧」から探して、直接問い合わせることができます。
Q 3-2 指定薬局の選択は、1つでないといけないのでしょうか。	A 3-2 マッチング（貸与希望学生等と指定薬局等との引き合わせ）が成立するまでは、複数の指定薬局と交渉することができます。
4 マッチングセミナー	
Q 4-1 マッチングとはどのようなことでしょうか	A 4-1 この奨学金制度は、あなたが薬剤師国家試験に合格後就業する指定薬局等について、あなたとその指定薬局等との合意（契約）によって成立する制度です。その両者が直接会って、合意形成するためのステップがマッチングです。

Q4-2 マッチングセミナーとは何ををするのですか	A4-2 この制度に参加している各指定薬局の担当者に直接会って話を聞くことができますし、状況が整えば、マッチングセミナーの場で両者が合意形成することもできます。 奨学金制度の詳細について相談もできます。
Q4-3 マッチングセミナーはいつどこで開催されるのですか	A4-3 毎年、11月から12月の間に佐賀市内で開催する予定です。 平成30年度は、平成30年11月23日（金・祝）に佐賀県薬剤師会館で開催します。
Q4-4 既に予定が入っているのですが、マッチングセミナーは必ず出席しなければならないのですか。	A4-4、A4-5 必ず出席しなければならないものではありませんが、複数の指定薬局の担当者に直接会って話ができる貴重な機会ですので、参加することをおすすめします。 なお、マッチングセミナー後は、貸与希望学生と指定薬局等のマッチングが成立するまで随時、交渉することとなります。まだマッチングが済んでいない指定薬局等の情報は県薬剤師会にお問い合わせください。
Q4-5 マッチングセミナーに欠席すると、希望の薬局から奨学金をもらうためには不利になりますか。	
5 マッチングの成立	
Q5-1 マッチングが成立したことは、どういった形で連絡があるのですか。	A5-1 マッチングが成立したら、指定薬局が県薬剤師会にあなたを奨学生としてふさわしい旨推薦することになっており、その際に、指定薬局から連絡があります。 また、佐賀県薬剤師会からも、あなたに直接、意向確認の連絡があります。
Q5-2 マッチング成立により、奨学貸与が決まったことになるのですか。	A5-2 翌年度の4月末日までに薬剤師奨学金貸与申請書により申請を行い、奨学金制度審査会で審査が行われ、正式に貸与決定がなされるまでは、決まったことになりません。
Q5-3 マッチング成立後に、マッチング相手（薬剤師免許取得後、薬剤師として業務に従事する薬局）を変更することはできますか。	A5-3 原則できません。
6 奨学金貸与に係る三者契約	
Q6-1 大学からの推薦書は、誰に推薦してもらったらいいですか。	A6-1 大学・大学院学長または薬学部長の推薦書を推奨しています。それらが困難な場合は、指導教官でも構いません。 様式は任意ですが、佐賀県薬剤師会でも推薦書のひな型（実施要領別添のひな形を参照）を準備しています。

<p>Q 6-2 成績証明書は何年分必要でしょうか。</p>	<p>A 6-2 6年制薬学課程の薬学生は、5年生から奨学金を受ける場合は1～4年生の成績証明書、6年生から受ける場合は1～5年生のものを提出してください。 4年制薬学課程を終了し、大学院に修学中の者は4年制薬学課程の全部及び大学院の前学年の分又は修士課程を卒業したものは4年制薬学課程及び大学院の全部の分を提出してください。 なお、前学年の成績証明書が間に合わない場合は、前々学年までのもので構いません。</p>
<p>Q 6-3 連帯保証人のうちの一人の3親等以内について、もう一人の親を立てることができますか。</p>	<p>A 6-3 両親二人が連帯保証人になることは好ましくありませんので、他の方（祖父母、叔父叔母）を探してください。</p>
<p>Q 6-4 3親等以内で連帯保証人となる親族がない場合は、どうすればよいですか。</p>	<p>A 6-4 3親等以外で確実に連帯保証をしていただける方について県薬剤師会に相談してください。</p>
<p>Q 6-5 親等の住民票について、現在、県外に在住していますが、その住民票で構いませんか。</p>	<p>A 6-5 住民票より元々県内在住であったことを確認しますので、住民票を提出してください。 なお、転居回数が多く住民票の記載では確認できない場合は他の方法による確認を検討しますので、県薬剤師会に相談してください。</p>
<p>6-6 マッチングが成立していても、奨学金貸与の対象にならないことがあるのですか。</p>	<p>A 6-6 申請後、奨学金貸与の適格者かどうかの審査を行います。貸与適格者数が予定数を超えている場合は、適格者の中から抽選により、貸与対象者を決定します。</p>
<p>Q 6-7 抽選はどうやって行うのですか。 また、貸与決定の抽選に外れた場合は、どうなりますか。</p>	<p>A 6-7 貸与希望学生自身、親、保証人、又は薬局開設者がお互いで話し合っ て抽選者を決めてもらい、いずれかが参加して抽選を行います。 抽選に外れた場合は、残念ながら貸与はありません。</p>
<p>Q 6-8 他の奨学金との重複受給は認められますか。</p>	<p>A 6-8 次の条件を満たしている場合は認められます。 ① 他の奨学金制度が重複受給を禁止していないこと。 ② 他の奨学金制度の卒業後就学先に制限がないこと。</p>

7 奨学金貸与期間、薬剤師免許取得まで	
Q 7-1 6年次へ進級し、引き続き奨学金の貸与を受けられる場合に、手続きはありますか。	A 7-1 薬剤師会へ在学証明書を提出していただき、6年次への進級確認を受けてください。なお、提出された在学証明書に学年の記載がない場合は電話等で確認をさせていただきます。
Q 7-2 要領第6-2-(1)のおって書きに「4年制薬学課程卒業で大学院に修学していない奨学生については、別途県薬に相談すること。」とありますが、2年目の手続きは具体的にはどうすれば良いでしょうか。	A 7-2 薬学の修士の課程を卒業した者であって、薬剤師国家試験受験資格が得られる年度の直近1年又は2年の期間の者であれば奨学生の対象となり、この2年目の手続きは薬剤師国家試験の受験資格を得るために必要な内容及び最短のコースであることの説明を記載した書類の提出が必要です。
Q 7-3 6年次に進級できましたが、卒業延期となってしまいました。どうしたら良いでしょうか。	A 7-3 奨学金は6年次の12か月分貸与で終了します。卒業延期後の期間は奨学金貸与がありません。 奨学金貸与終了後の翌月から1年半を加える期間内（すなわち翌年度）の薬剤師国家試験に合格した場合、その後は通常卒業と同様の取扱いになりますが、合格できなかった場合は、奨学金を返還しなければなりません。 なお、返還にあたっては、分割での返還も可能です。（返還の最大期間：奨学金の貸与期間）
Q 7-4 6年次へ進級できなかったのですが、どうしたら良いでしょうか。	A 7-4 奨学金貸与は打ち切られます。また、既に貸与を受けた分の奨学金を返還しなければなりません。 なお、返還にあたっては、最大12か月間の分割返還も可能です。
Q 7-5 最短年数で無事卒業できましたが、薬剤師国家試験に落ちてしまいました。どうしたら良いでしょうか。	A 7-5 最初の国家試験に落ちて、直ちに返還が求められるわけではなく、翌年度の薬剤師国家試験に合格した場合、その後は通常卒業と同様の取扱いになります。 ただし、翌年度に合格できなかった場合は、奨学金を返還しなければなりません。 なお、返還にあたっては、分割での返還も可能です。（返還の最大期間：奨学金の貸与期間）
Q 7-6 退学処分や停学処分を受けたときはどうなりますか。	A 7-6 奨学金貸与は打ち切られます。 奨学金を返還しなければなりません。 なお、返還にあたっては、分割での返還も可能です。 （返還の最大期間：奨学金の貸与期間）

<p>Q 7-7 休学することになったのですが、どのような取扱いになりますか。</p>	<p>A 7-7 県薬剤師会で審査を行い、やむを得ない理由による休学と認められた場合は、奨学金の貸与を停止します。 認められなかった場合は、直ちに貸与が廃止されます。これまで貸与を受けた奨学金は返還しなければなりません。貸与を停止し、休学期間が1年未満で復学した場合は、奨学金貸与を再開します。 なお、返還にあたっては、分割での返還も可能です。 (返還の最大期間：奨学金の貸与期間)</p>
<p>Q 7-8 やむを得ない理由による休学と認められましたが、1年未満で復学できませんでした。どのような取扱いになりますか。</p>	<p>A 7-8 貸与を受けた奨学金を返還しなければなりません。県薬剤師会が認めた場合に限り、返還の期日が猶予されます。 なお、返還にあたっては、分割での返還も可能です。 (返還の最大期間：奨学金の貸与期間)</p>
<p>Q 7-9 住所が変わりました。届け出は必要ですか。</p>	<p>A 7-9 すみやかに届出書（変更等届）を提出してください。</p>
<p>8 卒業後、奨学金貸与の返還について</p>	
<p>Q 8-1 奨学金貸与期間の1.5倍相当指定薬局の薬剤師として業務に従事した場合は返還を免除するとありますが、具体的にどういうことですか。</p>	<p>A 8-1 奨学金を1年間受領した奨学生は1年半以上、2年間受領した奨学生は3年以上、指定薬局で従事することをいいます。</p>
<p>Q 8-2 奨学金貸与期間の1.5倍相当期間を指定薬局で勤務を開始し、又は満了した場合は届出が必要ですか。</p>	<p>A 8-2 指定薬局に勤務を開始し、又は勤務を満了したときは届出書（勤務開始（満了）届出書）を提出してください。 なお、この届出書には、薬局開設者の記名・押印又は署名を貰ってください。</p>
<p>Q 8-3 薬剤師としての免許申請は5月頃になるはずですが、それまで従事した間の分はカウントされないのでしょうか。</p>	<p>A 8-3 国家試験合格後の4月を起点としますので、カウントされます。</p>
<p>Q 8-4 1.5倍相当の期間中に指定薬局で従事しない時期が生じた場合はどうなるのですか。</p>	<p>A 8-4 従事しない事態が生じた理由にもよりますので、従事している指定薬局又は県薬剤師会に直接相談してください。</p>
<p>Q 8-5 卒業後、事情により県外で就職しなければならなくなったときはどうしたらよいですか。</p>	<p>A 8-5 貸与を受けた奨学金を返還しなければなりません。 なお、返還にあたっては、分割での返還も可能です。 (返還の最大期間：奨学金の貸与期間)</p>

<薬局向けFAQ>

H300501 現在

9 指定薬局

- Q 9-1 薬局開設者の指定申請は、毎年度申請が必要ですか。
- Q 9-2 薬局の指定申請は、毎年度できますか。
- Q 9-3 県外の薬局開設者でも指定申請ができますか。
- Q 9-4 指定を受けようとする薬局の管理薬剤師は、正会員でなければならないですか。
- Q 9-5 原則として1薬局開設者に1軒とされていますが、例外はありますか。
- Q 9-6 指定申請者は、スコア表を提出するようになっていますがどうしてですか。
- Q 9-7 スコア表は申請者が記載して申請するのですか。
- Q 9-8 薬局開設者の指定の選定順位はありますか。
- Q 9-9 薬局開設者の指定は毎年概ね20件ですが、奨学金貸与は概ね10件であり、どうしてですか。
- Q 9-10 指定薬局開設者一覧表はどのように活用するのですか。

10 エントリーシートの活用及びマッチングセミナー

- Q 10-1 エントリーシートはどのように活用するのですか。
- Q 10-2 薬学生等への最初のアプローチはどうすれば良いですか。
- Q 10-3 マッチングセミナーはどのようなものですか。
- Q 10-4 マッチングセミナーは何回ぐらい、何処で開催しますか。
- Q 10-5 県薬は指定薬局開設者と薬学生等とのマッチングにどのように関与しますか。

11 指定薬局における薬学生への判断

- Q 11-1 指定薬局開設者は奨学生としての適格性判断はどのようにするのですか。
- Q 11-2 指定薬局開設者は奨学生として推薦を同一薬局で複数名の薬学生等を推薦できますか。
- Q 11-3 指定薬局開設者は奨学生として推薦はどのようにするのですか。
- Q 11-4 薬学生等の意向確認はどうするのですか。
- Q 11-5 奨学金貸与の決定はどのようにしてするのですか。

9 指定薬局	
Q 9-1 薬局開設者の指定申請は、毎年度申請が必要ですか。	A 9-1 毎年度申請が必要です。一度申請した同一薬局開設者でも申請できます。 ただし、1奨学生が2年目のときは申請する必要はありません。
Q 9-2 薬局の指定申請は、毎年度できますか。	A 9-2 毎年度申請ができます。 ただし、奨学生だった薬剤師が貸与年数の1.5倍の勤務期間中は、原則として、同一薬局に2人以上の重複勤務は認められないので注意が必要です。
Q 9-3 県外の薬局開設者でも指定申請ができますか。	A 9-3 指定を受けようとする県内の薬局の管理薬剤師が正会員であれば、県外の薬局開設者でも申請できます。

<p>Q 9-4 指定を受けようとする薬局の管理薬剤師は、正会員でなければならないですか。</p>	<p>A 9-4 この奨学金制度は、薬剤師会が実施する事業であることから指定薬局開設者又は奨学金決定薬局の管理薬剤師が県薬の正会員でなければなりません。</p>
<p>Q 9-5 原則として1薬局開設者に1軒とされていますが、複数の薬局（支店）を申請できるなどの例外はありますか。</p>	<p>A 9-5 この奨学金制度は、できる限り会員の皆様に広くご利用いただきたいと計画しており、原則として1薬局開設者で1軒（薬局）としています。 しかし、応募が予定数に満たない場合もありますので、同一薬局開設者が開設する異なる薬局を2軒まで申請できます。 なお、2軒目は指定の選定順位が下がることから、薬局毎に優先順位を付けて別業で申請する必要があります。 ただし、同一薬局（店舗）で2人は申請できません。 また、奨学生だった薬剤師が貸与年数の1.5倍の勤務期間中は、原則として、同一薬局に2人以上の重複勤務は認められません。</p>
<p>Q 9-6 指定申請者は、スコア表を提出するようになっていますがどうしてですか。</p>	<p>A 9-6 薬剤師の確保が地域医療体制の充実のために本当に必要であるのか、県の補助目的に沿っている薬局であるのかをスコア表を参考に判断します。 薬局開設者の指定は毎年概ね20件程度を予定しており、20件を超す申請があればスコア表を参考に審査会で審査し、指定をします。</p>
<p>Q 9-7 スコア表は申請者が記載して申請するのですか。</p>	<p>A 9-7 スコア表は奨学金決定薬局について薬局開設者が記載するようになっています。 なお、スコア表に記載された内容については、審査会において薬局機能情報及び必要があれば現地調査などにより精度を高める予定です。</p>
<p>Q 9-8 薬局開設者の指定の選定順位はありますか。</p>	<p>A 9-8 この奨学金制度は、できるかぎり会員の皆様に広くご利用いただきたいと計画しており、次の場合は選定の選定順位が下がります。 ・1薬局開設者が2軒の指定申請をする場合の2軒目 ・指定を受けて一度奨学金の貸与を実施した薬局開設者の次年度以降（2回目以降の実施）</p>
<p>Q 9-9 薬局開設者の指定は毎年概ね20件ですが、奨学金貸与は概ね10件であり、どうしてですか。</p>	<p>A 9-9 奨学金は毎年概ね10件だが、指定薬局開設者が必ずしも奨学金を貸与する薬学生が見つかるとは限らないことから、多めに指定を予定しています。</p>
<p>Q 9-10 指定薬局開設者一覧表はどのように活用するのですか。</p>	<p>A 9-10 指定薬局開設者一覧表は、奨学金を希望する薬学生等に配布して、薬局開設者及び奨学金決定薬局の選定の参考にしてもらいます。</p>
<p>10エントリーシートの活用及びマッチングセミナー</p>	
<p>Q 10-1 エントリーシートはどのように活用するのですか。</p>	<p>A 10-1 エントリーシートは、奨学生としての要件に適合しているかどうかを審査します。 また、指定薬局開設者が薬学生等の選定の参考にしていただくための資料となります。</p>

Q10-2 薬学生等への最初のアプローチはどうすれば良いですか。	A10-2 薬学生等からは指定薬局開設者へのアプローチはいつでもできますが、指定薬局開設者からのアプローチはマッチングセミナー開催後でなければこれをしてはなりません。 マッチングセミナー終了後はいつでも自由に学生にアプローチできます。
Q10-3 マッチングセミナーはどのようなものですか。	A10-3 マッチングセミナーでは、以下の内容の実施を計画しています。 ・奨学金制度の説明 ・指定薬局開設者と薬学生等のマッチング（出会い）の場の設定による相互の面談等 ・奨学金に関する全体的な相談等
Q10-4 マッチングセミナーは何回ぐらい、何処で開催しますか。	A10-4 年1回11～12月頃、佐賀県薬剤師会館で予定しています。 平成30年度は、平成30年11月23日（金・祝）を予定しています。
Q10-5 県薬は指定薬局開設者と薬学生等とのマッチングにどのように関与しますか。	A10-5 県薬は、指定薬局開設者と薬学生等の出会いの場としてマッチングセミナーの開催などを実施します。 また、指定薬局開設者と薬学生等のマッチングのために仲介、双方の思いや相談を受け、双方へ伝達するなどの関与を行います。
11 指定薬局における薬学生への判断	
Q11-1 指定薬局開設者は奨学生としての適格性判断はどのようにするのですか。	A11-1 指定薬局開設者は、エントリーシートを参考にしながら次の項目について本人に確認を取り、適格性の判断をします。 （判断項目） ・成績は優秀か（本人が同意すれば成績書を見せて貰うことも可） ・薬学生5・6年生であるか、又は大学院生（修士課程卒業者を含む。）で薬剤師国家試験受験資格取得年度の直近1年間又は2年間の者であるか。 ・県内の高校を卒業し、親又は親権者が県内在住であるか ・卒業後薬剤師として県内の自社の薬局に勤務を希望するか ・連帯保証人（2名）はいるか なお、最終的には奨学金貸与契約書により確認します。
Q11-2 指定薬局開設者は奨学生として推薦を同一薬局で複数名の薬学生等を推薦できますか。	A11-2 貸与希望薬学生等の推薦は、指定薬局1軒につき1人とする。
Q11-3 指定薬局開設者は奨学生として推薦はどのようにするのですか。	A11-2 指定薬局開設者は、奨学生として推薦するときは電話又はFAXなどで県薬に連絡してください。
Q11-4 薬学生等の意向確認はどうするのですか。	A11-3 推薦の際、指定薬局開設者は推薦した旨学生に伝えますが、県薬からも当該薬学生等に対して意向を確認することで、学生が安心し又は指定薬局からの推薦を否定することも考えられますので電話等で確認を行います。
Q11-5 奨学金貸与の決定はどのようにしてするのか。	A11-4 貸与希望薬学生の申請書に基づき奨学金審査会で審査を行い、適格者と判断された場合は奨学金の貸与を決定します。 なお、適格者が予定者数を超える場合は、適格者の中から貸与希望薬学生等自身、親・親権者又は薬局開設者のいずれかによる抽選を行います。